

コニカミノルタ厚木サイト 環境・社会報告書 2011



厚木サイト



KONICA MINOLTA

1. ご挨拶

平素は、コニカミノルタグループ厚木サイトの活動にご協力賜わり、誠にありがとうございます。
私どもは、地域の皆様を始め、多くのステークホルダーの方々にサイト内の活動をご理解頂くため、主要サイトにおきまして「環境・社会報告書」を毎年発行しております

本年度も、厚木サイトの事業内容や「省エネ」への取り組み、環境活動とその成果、環境データの公開、安全防災活動、地域社会活動などを紹介するため、「環境・社会報告書2011」を発行させていただきました。

多くの皆様にご一読頂き、私どものサイト内の活動をご理解頂ければ幸いです。

これからもコニカミノルタグループは公正・透明な企業活動を行い、環境に対する取り組みをご理解頂くとともに、皆様からの率直なご意見を謙虚に受け止め、サイト内の活動に反映させてまいります。今後とも、皆様からのご指導賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

コニカミノルタビジネスエキスパート株式会社
経営統括部 関東エリアリ-ダ-
佐久間 洋次

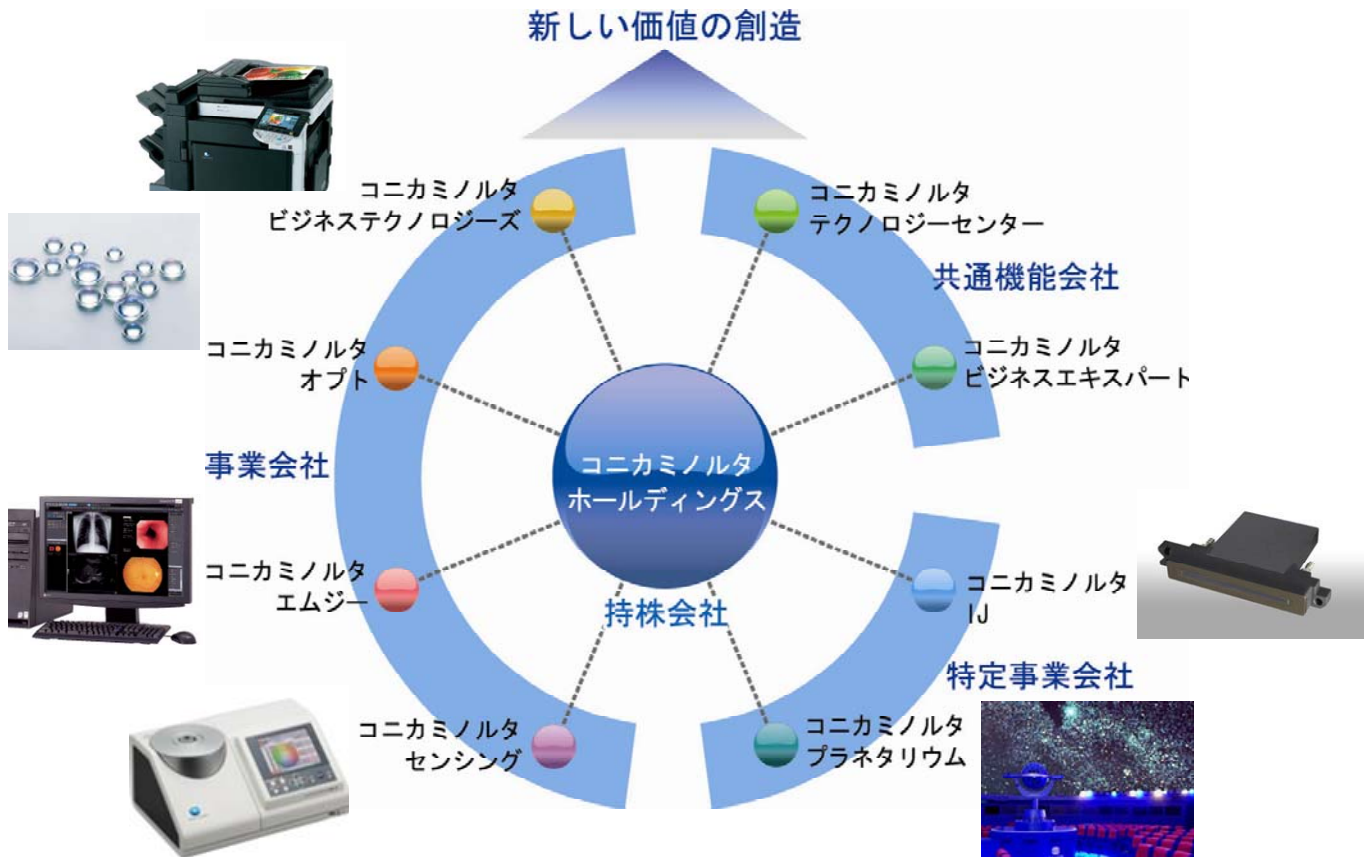
【目次】

ページ

1. ご挨拶	2
2. コニカミノルタグループのご紹介	3
3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」	4
4. 2010年度の進捗状況	5
5. 厚木サイト概要	6
6. サイト在籍会社紹介	6
7. 環境負荷概要	7
8. 環境活動	8
9. 安全衛生・防災活動	9
10. 地域交流・社会貢献	10
11. 用語の解説	11

2. コニカミノルタグループのご紹介

コニカミノルタグループは、持株会社であるコニカミノルタホールディングス株式会社のもと、事業ごとに分社した事業会社と共通機能会社によって構成される企業グループです。これまで培ってきた材料、光学、微細加工、画像という4つのコア技術をもとに、世界各国のお客様にさまざまな製品やサービスを提供しています。今後も、経営理念である「新しい価値の創造」を探求し、イノベーションを続けてまいります。



持株会社

コニカミノルタ ホールディングス株式会社

コニカミノルタグループの経営戦略の策定・推進、グループ経営の監査・管理・統括

本社所在地 東京都千代田区丸の内 1-6-1
 代表者 代表執行役社長 松崎 正年
 設立 1936年(昭和11年)12月22日
 資本金 37,519百万円
 決算期 3月31日

共通機能会社

グループ横断的な機能を集約した会社

コニカミノルタ テクノロジーセンター株式会社

グループ内の研究・技術開発、商品デザインの受託、知的財産の管理運営などのサービス提供

コニカミノルタ ビジネスエキスパート株式会社

グループ内へのエンジニアリング、ロジスティクス、環境・安全、その他各種シェアードサービスの提供

事業会社

事業別に、業務執行に必要な権限を委譲された会社

コニカミノルタ ビジネステクノロジーズ株式会社

複合機(MFP)、プリンター、印刷用機器などの製造・販売、ならびにそれらの関連ソリューションサービス

コニカミノルタ オプト株式会社

光学デバイス(ピックアップレンズなど)、電子材料(TACフィルムなど)の製造・販売

コニカミノルタ エムジー株式会社

ヘルスケア用機器、材料などの製造・販売

コニカミノルタ センシング株式会社

産業用、ヘルスケア用計測機器などの製造・販売

特定事業会社

持株会社の支援を受けて育成を図る事業会社

コニカミノルタ IJ株式会社

産業用インクジェットヘッド、インク、テキスタイルプリンターなどの製造・販売

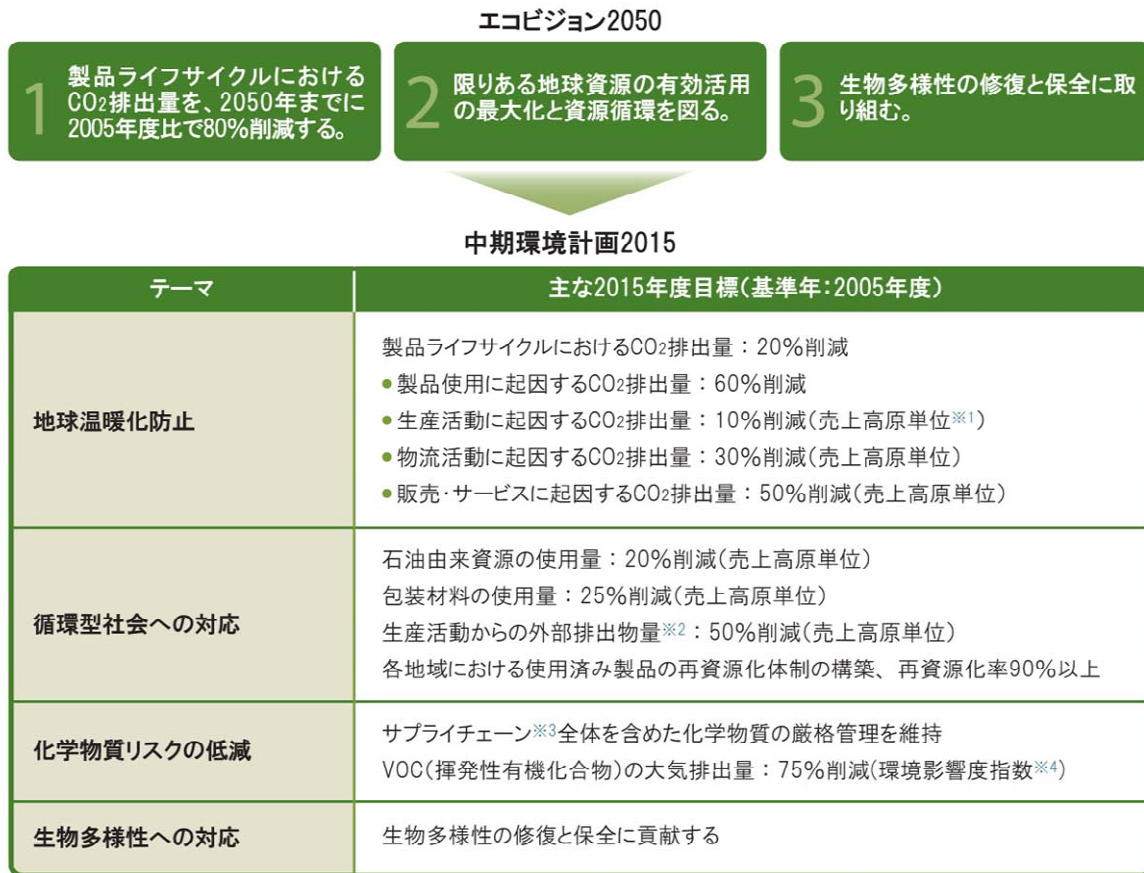
コニカミノルタ プラネタリウム株式会社

プラネタリウム機器およびコンテンツなどの製造・販売、プラネタリウム建設ならびに運営サービス

3. 「エコビジョン2050」と「中期環境計画2015」

コニカミノルタは、持続可能な地球・社会の実現に貢献し、グローバル企業としての責任を果たすために、2050年までに実現すべき姿を示した長期環境ビジョン「エコビジョン2050」を策定しました。

また、「エコビジョン2050」の実現に向けたマイルストーンとして、2015年度をターゲットとする「中期環境計画2015」を策定しています。この計画では、「地球温暖化防止」「循環型社会への対応」「化学物質リスクの低減」「生物多様性への対応」の4テーマについて、具体的な取り組みと達成すべき目標を掲げています。



※1 売上高原単位：売上高あたりの環境負荷量。

※2 外部排出物量：生産活動にともなって発生する総排出物量から内部リサイクル量と減量化量を引いた、コニカミノルタの拠点外に排出される量。

※3 サプライチェーン：ここでは、上流の素材会社から部品加工会社を経て、コニカミノルタに納品されるまでのルートを指します。

※4 環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数。

図3-1. 中期環境計画2015

さらに、この計画を生産の観点から推進する施策として、2010年1月、生産拠点の環境活動を総合評価する独自の制度「グリーンファクトリー認定制度」の運用を開始しました。

グリーンファクトリー認定制度

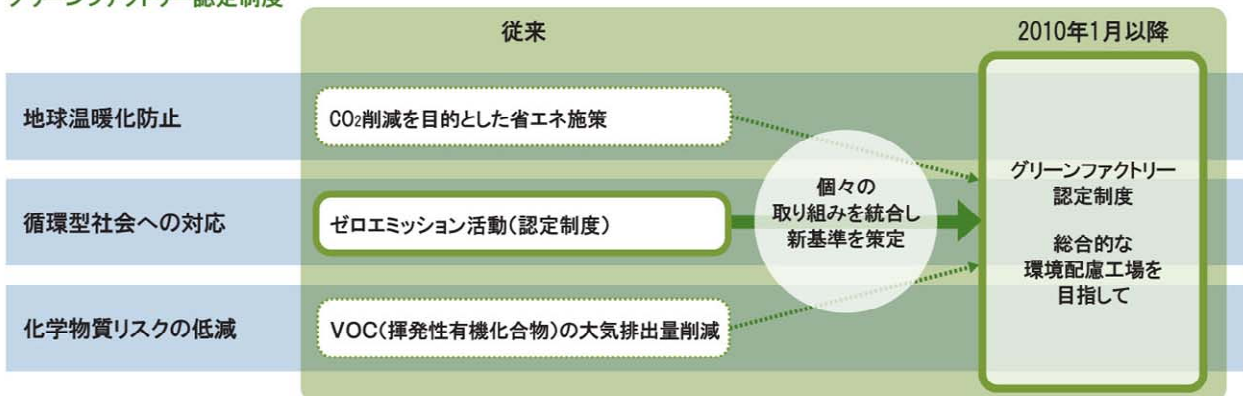


図3-2. グリーンファクトリー認定制度

4. 2010年度の進捗状況

(1) 地球温暖化防止

製品ライフサイクルCO₂排出量を2005年度比で、
 目標：43.5% 削減（921千t-CO₂）
 実績：45.5% 削減（888千t-CO₂）

製品使用時のCO₂排出量については、業界トップクラスの低消費電力を実現したモノクロ複合機などを市場に投入し、目標値を達成しました。また、生産活動では、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、エネルギー生産効率を高め、CO₂排出量削減を着実に進めています。しかし、物流活動では、需要変動への対応などにとまなう航空機輸送の増加が影響し、目標を達成できませんでした。



図4-1 製品ライフサイクルCO₂排出量

(2) 循環型社会への対応

生産拠点からの外部排出物量(売上高原単位)を2005年度比で、
 目標：9.9% 増加（2.7 t/億円）
 実績：15.9% 増加（2.9 t/億円）

生産活動からの外部排出物量の削減に向け、グリーンファクトリー認定制度の運用を通じて、生産効率向上や内部リサイクルを推進しています。しかし、生産時の排出物負荷が大きい製品の増産や、新工場立ち上げにとまなう突発的な廃棄発生などにより、グループ全体では目標値を達成することができませんでした。



図4-2 生産活動からの外部排出量

(3) 化学物質リスクの低減

VOCの大気排出量(環境影響度指数)を2005年度比で、
 目標：71% 削減
 実績：73% 削減

VOC(揮発性有機化合物)の大気への排出量は、景気回復による生産増のため、前年度比で増加しましたが、年度目標を達成することができました。

環境影響度指数：VOC排出量に有害性係数(人健康影響度、環境影響度)と立地係数をかけ合わせた、コニカミノルタ独自の指数



図4-3 VOC大気排出総量(リスク換算)

(4) 生物多様性への対応

「グリーンファクトリー認定制度」の運用の一環として、生物多様性への対応に取り組んでいます。水資源や排水への配慮、工場植栽の適正管理について対応指針を策定し、2011年4月から運用を開始しました。

区分	チェック項目
水資源への配慮	使用する水について、総取水量の削減目標を設定し、削減施策を実施していること。
排水への配慮	公共用水域へ排出する排水が、水生生物の生息環境など生態系へ及ぼす影響を確認できていること。
工場植栽の適正管理	工場敷地内で、生態系に悪影響を及ぼすおそれ強い外来侵入種の植栽、種子の播種を行っていないこと。

図4-4 生物多様性対応指針(抜粋)

5. 厚木サイト概要



サイト名 : コニカミノルタ厚木サイト
所在地 : 〒243-0025 神奈川県厚木市上落合231-1
設立 : 1987年
在籍人員 : 142名(2011年3月1日現在)
敷地面積 : 14,765㎡

主要業務内容

- ・複合機、プリンターなど情報機器のソフトウェア開発・評価
- ・情報機器の販売向け技術研修など教育研修の実施

サイト在籍会社

- ・コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社
- ・コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社
- ・コニカミノルタソフトウェア研究所株式会社
- ・コニカミノルタ総合サービス株式会社

6. サイト在籍会社紹介

コニカミノルタビジネステクノロジー株式会社

ワークスタイルに変革をもたらすドキュメントソリューションを提供

コニカミノルタグループの中核を担う事業として、MFP(複合機)・レーザープリンターを中心とする情報機器事業を世界各国で展開。オフィスやプロダクションプリントの市場に応える製品やシステム、ソリューションを提供しています。

欧米市場におけるオフィス向けMFP分野では、トップグループのポジションを得ています。また、少数多品種印刷のニーズに対応する印刷システムとして需要が拡大するプロダクションプリント分野では、高い耐久性と充実した製本機能を備えた製品のラインナップを拡充しています。



カラ-MFP [bizhub C652]



カラ-MFP
「bizhub C652DS」



デジタル印刷システム [bizhub PRESS C8000]

7. 環境負荷概要

厚木サイトは、情報機器のソフトウェア開発の拠点であるとともに、情報機器の販売向け技術者研修など教育研修と製品の評価サポートの拠点として活動しており、継続したエネルギー使用量・排出物の量の削減活動をしています。尚、在籍人員の減少に伴い、エネルギー・水の使用量も減っています。

【2010年度環境負荷】

- ・電力：通路の照明の間引きや休憩時間の消灯など節電に努めるとともに、照明器具を省エネタイプに切り替えることにより、前年度比-8%と減少しています。
- ・都市ガス：防火の安全性を考慮した、個別のガス湯沸かし器使用の中止に伴う、休止していた給湯システムの稼働により、前年度比13%増加となりました。
- ・水：厚木市の上下水道を使用。在籍人員の減少に伴い、水の使用量は、前年度比18%減少しています。
- ・排出物：人員減と事業活動の変化による有価物の減少に伴い、排出物は、前年度比27%減少しています。

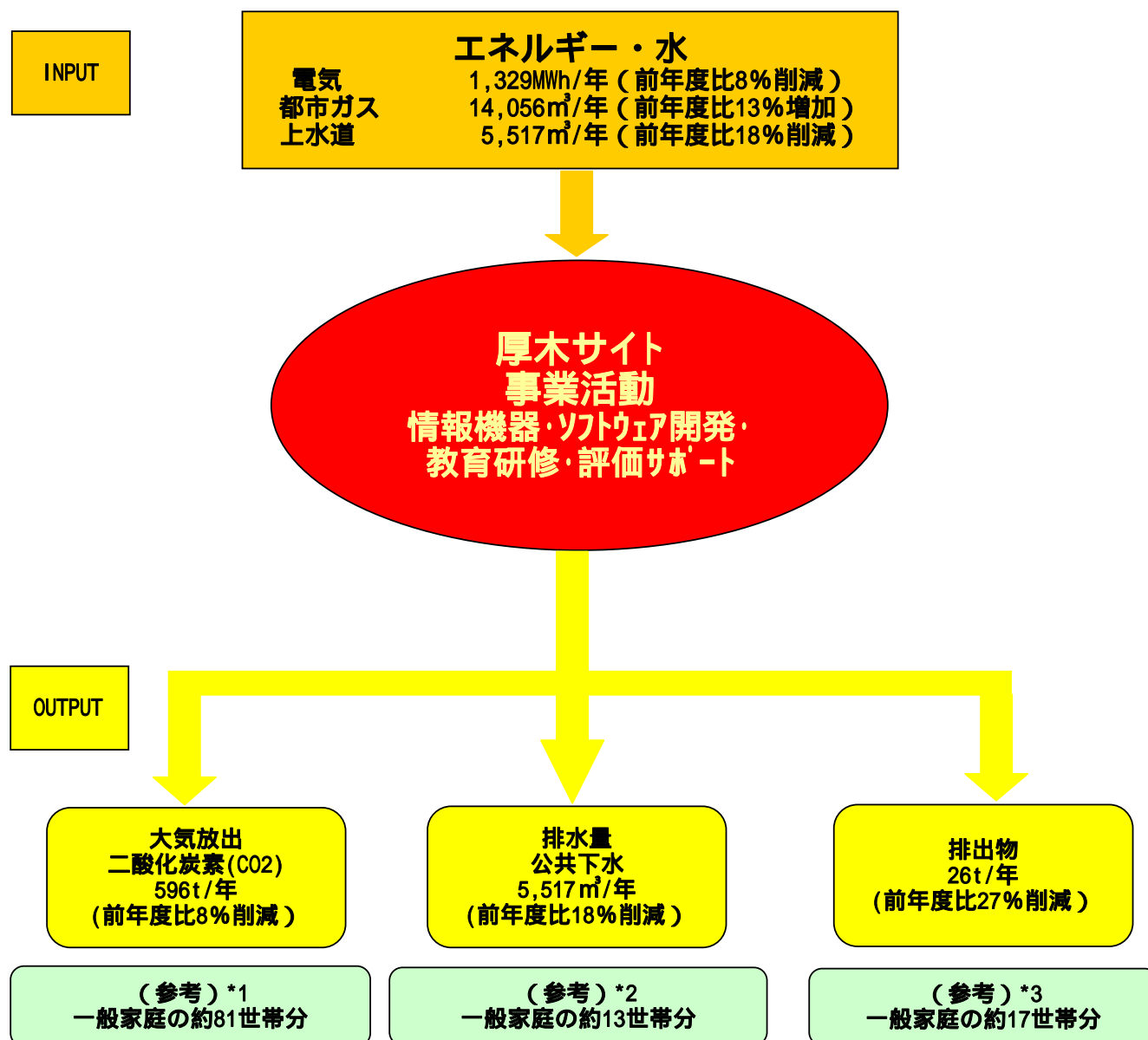


図7-1. 環境負荷概要

【一般家庭の使用量との比較資料参照】

- *1 一般家庭のCO2排出量：2001年10月名古屋市調査 7,400kg/CO2年(出典：新エネルギー財団NEF調べ)
- *2 下水道：東京都下水道局 一般家庭の使用量 約420m³/年
- *3 ゴミ排出量：「日本の廃棄物処理 平成12年度版」 1,132g/人日 × 365日 × 一家庭(3.5人) 1.5 t 算出

8.環境活動

(1)CO₂(二酸化炭素)排出量の推移

2010年より「チャレンジ25キャンペーン」の活動強化により、昼休みの空調強制停止、昼休みの消灯の徹底などを実施し、CO₂排出量は前年度比8%を削減しました。今後も活動を継続して行きます。

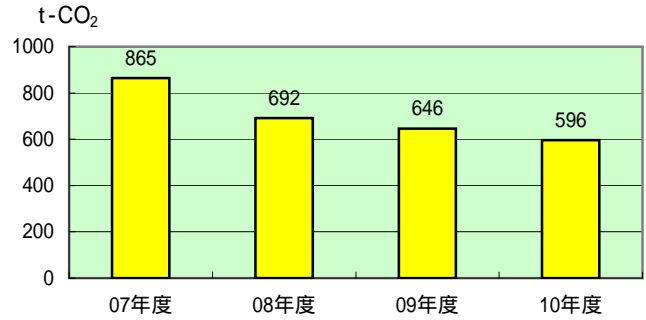


図8-1 二酸化炭素排出量

(2)電力使用量の推移

厚木サイトでは、休憩時間中の蛍光灯の消灯などの節電を奨励しています。また、照明器具(主に蛍光灯)を通常型から省エネ型に順次切り替えています。2010年度の電気使用量は前年度比8%を削減しました。

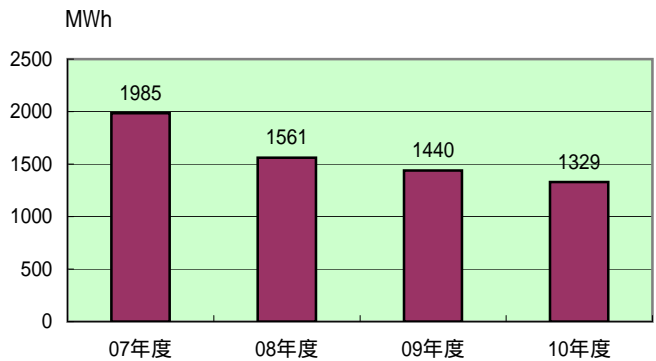


図8-2 使用量電力量推移

(3)上水道使用量の推移

厚木サイトは事務系サイトの為、生産に水道水を使用していません。サイト在籍者減少及び使用儉約の奨励により、削減効果を出しています。2010年度は前年度比で18%を削減しました。

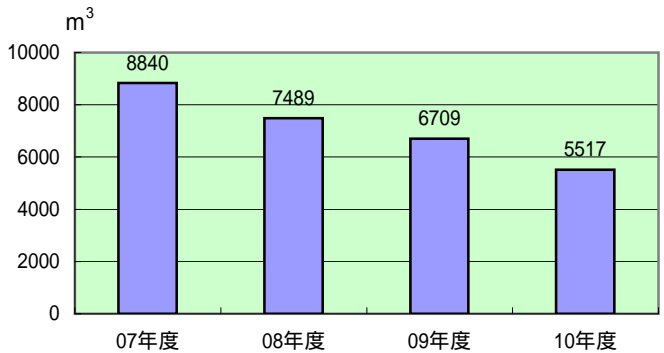


図8-3 上水道使用量

(4)排出物管理

サイトの排出物は、ゼロエミッションの活動を継続し削減を進めています。産業廃棄物は排出先をマニフェストにより管理しています。また、100%再資源化のシステムを取り入れており、中でも廃プラスチック・木材などは、再生固形燃料(ペレット)として加工され、製紙会社等で再生燃料として利用されています。一般廃棄物の内、紙屑とプラスチック屑の一部も燃料(熱エネルギーの原料)として再利用されています。

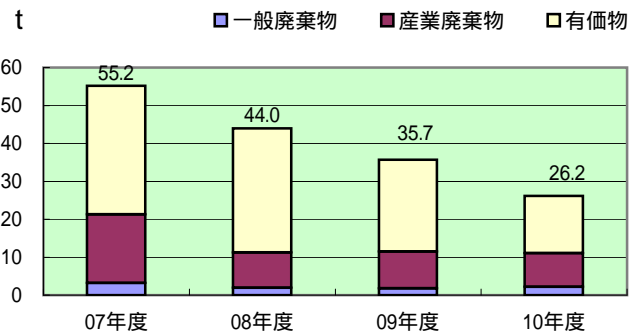


図8-4 排出物量

【排出物分類】 表8-1

一般廃棄物	産業廃棄物	有価物
紙屑・生ゴミ・プラスチック屑	金属屑・廃プラスチック・発泡材・ガラス・木材	紙・段ボール・鉄類

9. 安全衛生・防災活動

(1) 安全衛生活動

厚木サイトでは、毎月、安全衛生防災委員会を開催して情報を共有するとともに、食堂入口の横に専用の掲示コーナーを設置し、従業員の安全衛生意識高揚のために、社内の労災事例や告知ポスターを掲示しています。また、インフルエンザ対策や成人病予防など健康管理担当者から提供される健康関連情報を掲示し注意を喚起しています。



写真9-1 安全衛生活動掲示板

(2) 各種訓練の実施

厚木サイトでは防災意識を維持するために、全員参加で春の火災訓練、秋の地震避難訓練を行っています。火災訓練時には、消火栓からの放水訓練や消火器訓練及び救護訓練も実施しています。



写真9-2 消火器訓練



写真9-3 救護訓練



写真9-4 地震避難訓練

年4回開催する普通救命講習会では、社内講師が認定資格である「普通救命Ⅰ」の内容に沿った講習を実施し、AED（自動体外式除細動器）を使用した救命を的確に行うための訓練により、有資格者の養成を行っています。2010年度の講習には20人の参加がありました。



写真9-5 普通救命講習会



写真9-6 普通救命講習会

年2回開催する交通安全講習会では、講師を厚木警察署等に依頼して交通ルール遵守の意識を高めています。また、長時間パソコン画面を操作する業務が多い従業員向けに、社内講師がVDT症候群対策の講習会も開催して従業員の安全衛生意識の普及に努めています。



写真9-7 交通安全講習会



写真9-8 VDT講習会

10. 地域交流・社会貢献

(1) クリーンアップデーの活動

厚木サイトでは、年2回、6月と11月にサイト内及び近隣の公園など、周辺道路の清掃を全員で実施し、環境美化を推進しています。回収したゴミや落ち葉の量は合計で約90kgでした。



写真10-1 近隣公園の清掃



写真10-2 近隣公園の清掃



写真10-3 サイト周辺の清掃



写真10-4 サイト周辺の清掃



写真10-5 サイト内の清掃



写真10-6 回収品の分別

(2) 献血活動に協力

神奈川県赤十字血液センターの献血事業に協力し、毎年献血活動を実施しています。2010年度は21人の参加がありました。



写真10-7 献血車にて実施

11.用語の解説

循環型社会

製品や排出物を循環資源として再利用する仕組みを持った社会のことで、天然資源の消費が抑制され、環境への負荷が低減される。これからの目指すべき社会の姿。

再資源化

資源として一度利用したものに処理を加え、再び同一のものもしくは別の資源として利用できるようにすること。循環型社会構築の重要な手段。

一般廃棄物

産業廃棄物以外の廃棄物をいう。事業活動に伴わない、例えば紙くずなどが該当する。市町村の許可を受けた一般廃棄物処理業者に処理を委託している。

産業廃棄物

事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃え殻、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類その他、政令で定める廃棄物のこと。排出事業者が処理責任を負い、許可を受けた産業廃棄物処理事業者へ処理を委託している。

VOC (Volatile Organic Compounds)

常温常圧で揮発性を有し、大気中で気体状態となる有機化合物の総称。大気汚染原因物質の一つ。

CO₂削減

CO₂は、二酸化炭素の構造式。

厚木サイトでは都市ガスを燃焼するボイラーからの排気ガスとして放出されている。当サイトではエネルギー源として、主に電力と都市ガスを使用しており、これらの消費量を抑える省エネ活動を通じて、CO₂削減を図っている。

ゼロエミッション

自然界への排出ゼロのシステム構築を目指すこと。コニカミノルタでは、排出物の再利用や再生使用を進め、社内設定した基準に適合した事を社内監査で検証した上で認定する仕組みとなっている。

環境負荷

環境に与えるマイナスの影響のこと。廃棄物の排出、エネルギーの消費等、事業活動に伴ない発生するすべての影響を対象にする。

生物多様性

多くの種類の生き物がいて、それらがつながり支えあって生態系の豊かさやバランスが保たれること、また多様な遺伝子が過去から連綿とつながっていることを言う。

マニフェスト(産業廃棄物管理票)

排出事業者が、収集運搬業者・処分業者に対して交付し、委託した廃棄物の最終処分までの流れを把握して、不法投棄を防止し、適正な処理が行われるように監視するための帳票。

地球温暖化

地球全体の気温が上がり暖かくなること。気候変動により地球全体の環境に深刻な影響を及ぼすことが懸念されている。

人為的な影響により大気中の温室効果ガスの濃度が上昇していることが原因とされていることから、その削減による防止が必要とされている。



KONICA MINOLTA

会社名 : コニカミノルタ総合サービス株式会社
所在地 : 〒243-0025 神奈川県厚木市上落合231-1
連絡先 TEL : 046-220-6400 サイトサービス本部 関東サービス部 厚木サービスセンター
FAX : 046-220-6403
E-mail : eco-support@konicaminolta.jp
コニカミノルタ環境ホームページ:
<http://konicaminolta.jp/pr/eco>
発行年月 2011年12月